

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本裕美 新居知美 吉本佑司
学力向上推進員	教務課長	豊田尚子
委員	各学部長 主幹教諭 研究課長 人権進路課長 教務主任	原田真理 宮本洋子 谷口夏紀 森 浩一 森 雅美 二宮智子 片寄恭代 大内千代

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

( 高等部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よ さ	興味・関心のある活動に意欲的に取り組む姿が見られる。また、ICT機器等の活用により、表現の幅が広がっている。	課 題	日常生活や卒業後を見据え、「自己選択・自己決定」する機会を増やすとともに、主体的かつ自発的に判断する経験の積み重ねが求められる。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
生徒一人一人が興味・関心に基づき、教材や活動方法、役割等を自己選択・自己決定することで、自信をもち、生き生きと主体的に学習活動に取り組むことができる。		各単元において、教材や活動内容、役割等を自己選択・自己決定する場面を1回以上設定し、主体的に学習活動へ取り組む生徒を80%以上とする。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
生徒一人一人の実態に応じた「主体的な学び」の姿について事前アンケートを実施し、学部で協議する。また、各単元で生徒が選択・決定する場面を設定した授業を実施し、実践共有や互見授業を通して授業改善に努める。さらに、実践シートを活用して、生徒の変容を記録する。		事前アンケートを実施するとともに、実践記録や実践シート等を学部内で3回以上共有する。また、各学習グループで互見授業を1事例以上実施する。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			